仕事を分担して大きな目標を達成する仕事　～普通のサラリーマン～ –下–

高1　保護者

マイヒストリー

具体的な話をしましょう。

私は、落ちこぼれの万年中間管理職ですが、少しカッコよく、こうありたいという願望も含めて書きますが、ご容赦願います。

私は、大学の商学部を出て、新卒で初めて就職した化学メーカーに今なお勤務しています。文系ですが、中学の頃から化学や物理の本を好み、また、目に見える「モノづくり」をしたかったので商社や金融ではなく、化学系の製造業に就職しました。サラリーマン生活26年で4つの部署を経験しました。

①経理部門

大学時代に簿記関係の資格を取っていたためか、最初に配属されたのは経理部でした。安易な会社ですね。いったん転勤して、また戻り合計で8年間在籍しました。

私が勤務する会社は、一応「東証1部上場企業」なので、正確な情報やデータを世間に提供することを義務付けられています。残念ながら一流と言われる企業においても、不況で経営が厳しくなると利益をごまかしたり、不祥事を起こす事件が後を絶ちません。規制がどんどん厳しくなり、会計士の監査や国税局の調査は、警察の取り調べのように厳しくなりました。

そんな状況ですが、早く、正確、かつ、真実の情報を提供することで、投資家に安心して当社の株を買っていただく一方、会社はそのデータを基に経営内容を分析して次の経営戦略を決めることができるのです。仕事は忙しく、特に決算集計作業の時期は毎晩最終電車の時間を気にしながらきつい仕事が続きました。でも、お金を扱う部署でもあり、会社にとって重要な仕事をしているんだという気持ちで乗り切っていた思い出があります。

会計士や国税局などの専門家とある程度互角に議論するためには、こちらもそれなりの専門知識を持っていなければなりません。会社法や税法などの関係法規も必死に勉強しました。とはいえ、学生時代に勉強したことが活かせたわけで、そういう意味では、ラッキーだったと思います。

②海外勤務

入社6年目でアメリカのシカゴにある子会社に転勤しました。英語は全くできませんでしたが、なんとかなるものです。ここは社員6人の小さな会社でしたが、小さくても一つの独立した会社ですから、やるべきことは同じです。何よりも親会社の力を借りず、自分たちだけで稼いで食べていかなければなりません。人数が少ないので全員が年齢に関係なく重要な仕事を分担しました。しんどかったですが、いろんな意味で自身を鍛えられたと思います。一方で、休日ごとにアメリカ中はもとよりアメリカ以外にもカナダ、メキシコ、フランスまで旅行しました。会社からは、遊び過ぎだと皮肉を言われましたが、ガイドも通訳も無しで、自分だけでホテルや飛行機を予約して、レンタカーで各地を巡ることは、考えようでは、一番の鍛練になったかもしれません。

長い人生の中でわずか数年だけのことです。必ず得難い経験ができます。ぜひ海外にトライしていただきたいと思います。

③人事部門

わずか2年のアメリカ生活を終えて帰国すると、今度は人事部に配属されました。この後、人事部に13年間勤務することになるとは、当時は思いもしませんでした。

人事部の仕事は、従業員の募集・採用から研修、配属・異動・転勤、勤務成績評価、税金・年金の手続き、退職前後のお手伝いなど、まさに入社から退職まで、同じ会社の「社員がお客様」という仕事です。気を使うことが多く、精神的には休まることがあまりなかった記憶があります。ここでも労働関係の法律や社会保険や所得税などの専門知識が要求されました。独学では無理と判断して、会社でお金を借りて夜間・休日に専門学校に通いました。

人事の仕事は様々な面で社員の面倒を見ますから、感謝されることも多いです。一方で、自分の給料や成績評価に満足している人はおそらくいないでしょう。残念ながらそれを人事部のせいにする人もたまにいますので、批判の対象になることもありました。そんな時でも、真心で向き合うことを心掛けて、理解していただきました。

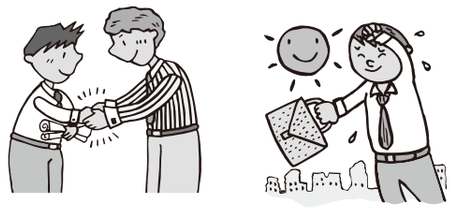
また、採用に関しては、13年間で500人以上の学生を面接しました。バブル時代は社会をナメたような学生も多くいました。学校の就職担当の先生も高飛車で、「課長では話にならん、部長を連れてこい」とか、「化学メーカーはクサいからダメ」とか、厳しいことを言われて門前払いされたケースも少なくありません。それが、バブル崩壊すると手のひらを返したように「ウチの学生もなんとか採用してください」と頭を下げて来たのには驚きました。ここで学んだことは「実るほど首（こうべ）を垂れる稲穂かな」（立場が上になるほど頭を下げる）という言葉です。どんな時でも分け隔てなく真摯に学生と接し続けたことで、「この会社は安心して学生を任せられる」という信頼を得ることができたと自負しています。

④原料調達部門

現在所属している部署です。4年目になります。一般に会社は、ヒト・モノ・カネで成り立っていると言われますが、私のサラリーマン人生も、カネに始まり、ヒトを経て、最後にモノを扱うことになったというわけです。

製造業は原料がなければ止まってしまいます。昨日まで買えたものでも、明日も買えるという保証はなく、ここでも気苦労は絶えませんが、大変やりがいのある仕事です。年間1万トン使う原料が、1キロわずか10円上がるだけで、年間の原料代は1億円高くなってしまいます。その分、会社の利益が一気に吹き飛ぶわけですから、価格交渉は真剣勝負です。街で買い物する際の「ちょっとまけてよ」というノリでは続きません。世界の経済情勢や業界の動向から製品の化学的組成まで幅広いデータから適正価格はこうだと相手を説得できなければなりません。この部署でも地道な勉強は欠かせません。

ところで日本は資源がない国です。石油も鉄も海外から持ってくるしかありません。この半年で中国に3回出張しました。求める資源は、日本から丸2日かけてようやくたどり着くような奥地に行かないと入手できません。おまけに、現地の人と毎晩52度（日本酒の3倍くらいきつい）の酒で乾杯しないと仲良くなれないので、体力的にもキツイです。しかし、今、世界中で天然資源の争奪戦が繰り広げられ、世界の果てで名もないサラリーマンたちが資源獲得に日々奔走しているのです。彼らのおかげで私たちはテレビが見れて、車に乗れて、食事ができるのです。そう思うと、この原料調達という仕事の重要な意義が改めて認識され、頑張ろうという気持ちになります。



最後に

サラリーマンになって思うことは、どの仕事においても幅広い知識、技術が求められ、いつも勉強の連続だということです。学生時代は、就職したら勉強から逃れられると思っていましたが、考えが甘かったです。社会に出ても勉強の連続でした。楽してお金を得る方法などありません。これは社会に出る際の最低限の覚悟です。

一方で、サラリーマンは、風邪で休んでも毎月決まった日に給料が振り込まれます。週休2日が主流になった今では、年間休日は120日前後あります。単純計算では3日に1日休んでいることになります。やりたいことは、仕事以外のときにやればよいのです。

どんなものでも、光が当たる裏側には陰ができます。職業選択に際しては、雇う側は陰の部分もすべてをさらけ出し、学生は光と陰の両方を受け止めた上で、それでもこの仕事は素晴らしいから選んだと言えるようになってほしいと思います。

皆さんが、納得できる職業につかれることをお祈り申し上げます。